

加西市議会議長 森田 博美 様

建設経済常任委員長 土本 昌幸

建設経済常任委員会行政視察報告書

標記の件について、その調査結果を報告いたします。

1. 調査年月日 平成20年7月23日(水)～25日(金)
2. 視察先 北海道深川市、北海道富良野市、北海道石狩市
3. 出席者氏名 土本昌幸 丸岡弘満 高橋佐代子 西川正一 森元清蔵 森田博美 後藤光代(随員)
4. 視察内容

【深川市】7月23日 (人口 24,573人)

深川市は、石狩川、雨竜川流域の肥沃な地帯で、きらら397・ななつぼし・ふくりんこをはじめとする良質良食味米生産、山間丘陵地帯では、畑作・果樹・酪農が営まれている純農村都市である。

地産地消について (14:20～15:20)

特産品開発について (15:20～16:00)

農作物直売所施設 (ライスランドふかがわ) 視察 (16:10～16:30)

地産地消について

深川市における地産地消の取組は、消費拡大のためのPR・販売や公共施設等における直売など市・JA・生産者が一体となって推進されている。

また、平成20年度においては、「地産地消対策推進事業」により、地元スーパー等に地元農産物の取扱いを増やす取組も推進されている。(地産地消対策費200万円)

(内容)

1. 地元農産物販売促進のための各種PR活動

JAが主体となって、各種農産物のPR販売を促進

① 各種PR用ポスター・のぼり等作成・野菜、そば、馬鈴しょ等活用

② 米・野菜等即売会の開催

③ 深川米キャラクターグッズ活用による販売促進(市民にイラスト募集)

・深川農業ステップアップ推進事業(深川産農産物PR・販売推進事業)により、対象経費の1/2を補助

2. 各種イベントでのPR・販売

(1) スローフードフェスタ in ふかがわ&青果・花きフェア

市内で生産された農畜産物やその加工品等を販売することにより、農業に対する理解を深めてもらうため毎年8月に開催している。

① 主 催 スローフードフェスタ in ふかがわ&青果・花きフェア実行委員会

② 内 容

区 別	内 容
深川産米 PR	深川産米の販売 純米酒試飲（深川産米使用）
きたそらち産青果・花き販売コーナー	メロン・スイカ・トマト・胡瓜・ピーマン・南瓜・長ねぎ他 スターチス・ラクスパーク・デルフィニウム・ひまわり他
農産加工品販売コーナー	味噌・笹だんご・福神漬け他
販売コーナー	手打ちそば（深川産そば 100%使用）・おにぎり（深川産米使用） ジュース・ビール・そば味噌おでん・米粉（深川産米）使用の たこ焼き・たい焼き・てんぷら・ユリ根コロケ・から揚げ・ かき氷
水産物販売コーナー	増毛産海鮮市（深川市地方卸売市場）
農業に関するパネル展	農業農村整備事業・環境保全関連・現状の農業情勢など
子ども体験コーナー	金魚すくい・ヨーヨーすくいなど
アトラクション	お米すくい大会・もちつき大会・大抽選会・もちまき

・地産地消促進イベント助成金により支援

(2)ふかがわ米こめっちフェスタ

ふかがわ米の PR と販売を行うため、毎年10月の新米時期に開催している。

① 主 催 深川市農業対策協議会

② 内 容

区 別	内 容
新米試食会	ふくりんこの試食
豚汁無料配布	きたのそらちの畜産物を使用した豚汁の無料配布
新米抽選券付販売（空クジ無し）	ふくりんこの5kg袋の販売（5kg 買い上げ毎に抽選くじ1回）

・深川市農業対策協議会交付金により支援

(3)愛育祭

食品の安心・安全が問われている中、地元で採れた農作物を使ったメニューを紹介し味わってもらふことにより、地元産の安全で安心な農産物を食べてもらう「地産地消」を実践し、心身ともに健康な男女共同参画を目指すもので、毎年秋に開催している。

①主 催 深川市男女平等参画推進協議会・深川市農業対策協議会

②内 容

人参のポタージュ・ジャガイモのグラタン・りんごデザート・野菜サラダ等の提供
新米販売の実施

・深川市農業対策協議会交付金により年間80万円支援している。

3. 生産者等における直売

(1)生産者

市内8生産者において、直売を実施している。

・市HPに掲載している。

(2)JAきたそらち

直売所に旬の野菜等の直売

4. 各種公共施設等での取組み

(1)市内交流施設等

①アグリ工房まあぶ

- ・野菜・果樹などの農産物の販売
- ・パン・ヨーグルト・りんごジュースなどの農産加工品の販売
- ・地元農産品を活用したレストラン

②ぬくもりの里「ほっと館ふあ〜む」

- ・野菜・果樹などの農産物の販売
- ・地元農産品を活用したレストラン

③道の駅「ライスランドふかがわ」

- ・野菜・果樹などの農産物の販売
- ・地元農産品を活用したレストラン

《問題点》

現在、油の高騰で大変な状況である。

特産品開発について

総務省の「頑張る地方応援プログラム」の事業の採択を受けて、産業振興施策を実施している。

①基本テーマ 産業振興

②プロジェクト名

- ・にぎわいの街創出プロジェクト（中心市街地）

【成果目標】コンシェルジュの対応・案内件数年間2,000件

- ・来てみてくらすプロジェクト（移住・定住）

【成果目標】移住人口3年間で15件30人の増

- ・総合地域経済活性化計画（元気のみなもと計画）（産業振興）

【成果目標】企業・事業所の立地・誘致3年間で2件

(内容)

- (1)そばクレープの取組み（札幌にガレットを食べに行きはじめた）

- ①試作品開発は㈱深川振興公社
- ②協力事業者の発掘・試作品成果のフィードバック
- ③デモ販売の実施・市場調査
- ④商品化の方向性の確認
- ⑤協力事業者の拡大

<販売アンケート結果>

そばクレープ認知度→8割の人が知らない。

味→デモ販売毎に評価向上（おいしいが8割）

デザート系具材を求める意見あり

価格→割高感が強い（高いが6割。300円～400円で売ると売れるが、本当は千円である。）

調理時間→遅いが4割（改善）

◎道内では、そばクレープの認知度が低い。収益面で商品化が困難

(2)深川の黒米プロジェクト

地元の大学が開発し、この深川で誕生した黒米を貴重な地域資源の一つととらえて、地域産業の振興につなげている。

○目標

- ①深川で誕生した黒米を市民に広めていきます。
- ②黒米を活用した商品化により、交流人口の増加と地域経済の活性化につなげていきます。
- ③深川市内で黒米が生産できる環境を整えている。

○当面の取り組み

①拓大との連携

黒米の特性把握や新品種の原料提供などについて、拓大の協力を得ながら進められています。また、開発商品の大学ブランド化を模索している。

②黒米の製粉化

商品開発の幅を持たせるために、多度志そば工房の協力を得て黒米を製粉し、その活用を図る。

③商品開発協力事業者の発掘

市内事業者や団体などに黒米玄米や黒米粉を提供し、市民ぐるみで商品開発を進める。

④健康面での優位性の確立

黒米に含まれるアントシアニンなどの栄養成分の分析を進め、健康面での優位性を確立

⑤黒米の普及

各種イベントやホームページなどを通じて黒米PRを行い、市民ぐるみで黒米を育む環境を創出している。市内小中学校給食での黒米ごはん1800食。

◎食と観光からオンリーワンのまちづくりを考える（深川青年会議所50周年記念事業）

H17年7月7日 じゃらん北海道発 編集長を招く

「深川そばめし」の基本ベース

- ・ 深川産そば+深川産米のおにぎり
- ・ おにぎりは、揚げた蕎麦の実が入っている
- ・ おにぎりの味付けには蕎麦つゆを使用している

「深川そばめし」定食の掬

- ・ 深川産蕎麦飯をつける
- ・ 深川産のハーフ蕎麦をつける
- ・ 副食については、深川産の食材を使用したものを1品つける
- ・ 価格は1,000円以内とする

【富良野市】 7月24日 （人口 24,759人）

富良野市は、上川支庁管内の南部に位置し、北海道のほぼ中心にあり富良野盆地の中心都市である。北海道の中心・富良野市は、ともに地理上の特性により、「へそ」取り持つ縁で昭和53年に友好都市親善協定を提携されている。また、市域の約7割が山林という恵まれた自然環境である。

ごみ固形燃料施設視察（11：00～12：00）

- ・可燃ごみを固形燃料化し、様々な施設の熱原として有効活用されている。

ごみ減量化について（13：00～15：00）

富良野地区環境衛生センター視察（15：20～15：50）

ごみ減量化について

1. 清掃事業の沿革

- ①H13年10月1日より ・「燃やさない・埋めない」を基本理念とした「14種分別収集」開始
- ②H14年3月 ・固形燃料化施設設備更新
- ③H14年8月 ・生ごみ指定袋を生分解性プラスチックに変更
- ④H14年12月 ・一般廃棄物処理施設（焼却施設2炉）を廃止
・衛生用品の広域共同処理開始
- ⑤H15年3月 ・資源化率 90.3%
- ⑥H15年4月 ・空きびん、プラスチック、ペットボトルを、中富良野町資源回収センターで広域共同処理施設
- ⑦H16年3月 ・資源化率 93.0%
- ⑧H18年3月 ・一般廃棄物処理基本計画（ごみ処理基本計画）の改訂
- ⑧H20年4月 ・ごみの分け方・出し方ガイドブック作成、全戸配布

2. 普及啓発事業

循環型社会形成の主旨を理解してもらうために、あらゆる機会を通じてごみリサイクル啓発活動を行い、市民の認識を高めていくとともに、市民参加による普及啓発活動事業を推進している。

(1)ごみ減量化の意識効用のための方策

①ごみ分別に対する住民説明会の開催

- ・1人から説明に行く。

②ごみの不適正排出者に対するごみ分別指導

- ・指定袋以外で出したごみは一切収集しない。
- ・どうしても直らないと、業者を雇ってほしいと言っている。

③リサイクル掲示板及び施設見学

- ・富良野市の場合は1月ごとにリサイクル掲示板ということで、今年はいくらでしたこれだけ減量しましたと目標値も入れながら市民に啓発されている。

④地域との連携強化による不法投棄及び不適正排出防除

⑤リサイクルセンター学習施設の活用及び施設見学

⑥ごみステーション設置に対する補助

H13年10月1日より14種分別収集

- ①プラスチック類 ②ペットボトル③生ごみ④空き缶・金属類⑤空きびん・陶磁器・ガラス

⑥乾電池類⑦新聞・雑誌類⑧固形燃料ごみ⑨衛生用品・ペット糞等⑩枝草類⑪大型ごみ・電気製品⑫灰⑬動物死体⑭処理困難物（基本的に販売店で引き取り）

(3)ごみの排出区分及び収集方法

区 分		排 出 方 法		収 集 頻 度		事 業 系	
				生 活 系			
				市街	農村		
①生ごみ		指定袋（薄緑）		週2回		直接搬入か又は許可業者に委託	
②枝草類	枝	紐結束		隔週	自己処理		
	草	透明袋					
③固形燃料ごみ		指定袋（黄）		週1回		直接搬入か又は許可業者に委託	
④ペットボトル		指定袋（橙）		隔週			
⑤プラスチック類		指定袋（紫）		週1回			
⑥空き缶・金属類	空き缶	指定袋（青）		隔週			
	スプレー缶・金属類	透明袋					
⑦空きびん・陶器・ガラス	びん	透明	空きびんポスト		随時投入		直接搬入か又は許可業者に委託
		茶色					
その他							
		陶磁器・ガラス	専用回収コンテナ				
⑧乾電池類	乾電池	回収ボックス		随時投入			
	電球・蛍光灯	回収店		随時			
⑨新聞・雑誌類	新聞	紐結束		隔週		直接搬入か又は許可業者に委託	
	雑誌	紐結束					
	ダンボール	紐結束					
	紙パック	紐結束					
⑩大型ごみ・電気製品	大型ごみ	有料個別収集		月1回			
	電気製品	有料個別収集					
⑪衛生用品ペット糞等		指定袋（黄）		週1回		直接搬入か又は許可業者に委託	
⑫灰		透明袋		隔週			
⑬動物死体		随時自己搬入					
⑭処理困難物		基本的に販売店で引取り					

*粗大ごみ・電気製品等のごみ処理手数料は、条例の定めによる。

【石狩市】 7月25日 （人口 61,282人）

観光行政について

石狩の市民、美しい自然や景観、豊富な食材、地域固有の文化・歴史など市にあるすべてのものが「観光資源」といえます。石狩市市民が持つ、これらすべての観光資源を活用・整備し、新しい観光スポットの創設、観光ルートの開発などにより、「魅力があり、観光で地域が潤うまち」を目指している。

1. 観光振興の基本理念

従来の観光開発は、ほとんど経営資本による観光エージェントによって推進されてきたために、住民不在の観光事業が展開されることが多く、地域へ負担ばかりがのしかるとか、地域経済活動に利用されるだけといった例が多数発生していることは、マスコミ等の報道により周知している。

単に市内に数多くの観光施設を開設させることを目的とせず、既存の観光資源の保存・再生・活用に重点を置いた観光振興を目指し、「何度も訪れたくなるような魅力ある観光づくり」イコール「住んでみたい街づくり」を進めている。

また、観光客と住民が交流する「人と人とのふれあい」を通じて、自らの地域に対する魅力を再発見し、自信、誇りの醸成や地域住民のホスピタリティの向上を目指し、地域の活性化を図ることを目標としている。

それには、観光の関する団体・企業・事業者をはじめ、基幹産業である農漁業者・地域住民・市が協働して観光振興に取り組む姿勢が不可欠です。地域社会が自律的かつ主導的に「地域体力」にあった観光開発を進めていくことにより、継続的に地域の振興を進めることで、結果として観光産業が創造され、経済効果が得られるものとする。

観光振興と新石狩らしさを追給し、観光のまちづくりによって地域が潤うことを目指すものである。

2. 計画の目標

① 「地域個性を生かした観光」で潤う

- ・ 文化的背景や歴史、自然、景観、産業など、石狩市として地域特性をよりどころとした観光のまちづくりを進める。
- ・ 市民との協働による観光資源の発見・再構築・創出などを通じ、地域ぐるみで石狩観光の魅力を高める。

② 「農山漁村の評価を高める観光」で潤う

- ・ グリーンツーリズム、産業観光、街道観光、都市観光、都市観光、視察観光などのニューツーリズムへの取り組みや石狩ブランドの開発を通じ、第1次産業、農山漁村の価値の創造を促進します。

③ 「お客様の視点から始める観光」で潤う

- ・ 地域ぐるみのホスピタリティの向上、観光情報サービスの強化などのソフト面から、交通アクセス、案内表示、施設の造り方などのハード面まで、観光客を温かく迎える環境整備を進めます。

④ 「持続可能な観光」で潤う

- ・ 観光を担う人材の育成を図り、親から子へ、そして孫へと、その地域でいつまでも続けられる観光の確立を目指している。
- ・ 美しい風景、営々と続く生態系を、利用者と提供者双方が守り、未来に残すという

意識を持って観光のまちづくりを進めている。

3. 施策の基本方向

(1) 「地域個性を生かした観光」で潤う

〈重点プロジェクト1〉

- ・石狩鍋復活プロジェクト（全国区ブランドの掘り起こし）

全国でも知名度の高い「石狩鍋」を、市内の多くの飲食店で提供できるよう、復活運動展開し、活動拠点を「本町地区」とし、積極的なPR活動を通して石狩の食文化を広げるきっかけをつくります。石狩鍋は石狩市が発祥の地であります。市内14店舗で石狩鍋を食べることができます。石狩鍋を作る食材をスーパーで販売している。

- ◎ その町にいる人が動かないといけない。市民の皆さんにきっかけをもってもらおうことが大切である。平等の精神の中で繋ぐことが大事である。

〈重点プロジェクト2〉

- ・厚田公園展望台「恋人の聖地」プロジェクト（永遠の愛誓う観光のメッカに）

ブライダルデザイナー桂由美氏が中心となり、全国で展開している「恋人の聖地」プロジェクト。平成18年7月に「恋人の聖地・道内第1号」として認定された厚田公園展望台を活用し、若い世代に向けた誘客事業を実施している。

認定を機に、地元飲食店による「恋人の聖地」にちなんだカップルメニューの開発提供をしている。

◎Ishikari あいロードプロジェクト

地元女子大生の若い発想を生かした観光地づくりを目指し、企画立案を行う。

厚田公園展望台をプロジェクトの象徴として、若い恋人たちをターゲットに、「i」

（市名の頭文字）、「あい風」（厚田地区で古くから言われる、幸せを運ぶ海からの風）、

「愛冠（あいかつぶ）岬」（浜益区毘砂別の海岸にあるも岬）の3つの「あい」を基

に、「オール石狩」で「あい」あふれる魅力あるおもてなしメニューを多数提供するというもの。

○誘客イベントの開催

内容：Ishikari あいロードプロジェクトと連携し、各種誘客イベントを開催

例 <夏期>既存イベントにあわせた集客イベントの開催

<夏期>クリスマスイベント、キャンドルナイト

○プロポーズの日イベント（平成19年6月3日）

石狩が缶詰発祥の地であることにちなんで、展望台を訪れたカップルに二人のオリジナルの缶詰づくり体験のサービスを提供。南京錠の鍵など二人の思い出の品を缶に封じ込めることができる。スタッフが当日撮影する二人の記念写真がラベルになる。

石狩市在住のカップルからプライベートなプロポーズ兼人前（結婚）式開催の申出があり、展望台頂上を二人のために解放した。この地での第1号の結婚式となった。

(2) 「農山漁村の評価を高める観光」で潤う

〈重点プロジェクト3〉

- ・森の活用プロジェクト（総面積7割を占める森林資源を生かす）

6年間に渡って濃昼山道保存会による整備が進められてきた厚田区の「濃昼山道」が

平成17年秋に再び開通し、多くの人々の注目を集めています。これをきっかけに市内でも森林資源の活用が積極的に検討されるようになっており、新たなドライブコースの創設なども視野に入れながら、観光客の受入れ体制を強化することはもちろん、森林を軸とするツアーの充実を図り、石狩の森林の知名度アップを狙っている。

(3) 「お客様の視点から始める観光」で潤う

〈重点プロジェクト4〉

・浜益温泉魅力アッププロジェクト

浜益地区に釣りや登山、海水浴で訪れた人たちは、帰途、その汗を流してさっぱりするために、浜益温泉に立ち寄る確立が高い傾向にあります。今後は、その傾向を踏まえたツアーの展開や、利用者の満足度を高めるためのサービスを開発・提供することでリピーターの増加へと結び付け、民宿との連携を進めて浜益地区の観光客増加を図っている。

〈重点プロジェクト5〉

・情報発信プロジェクト（新鮮な情報でまちの知名度をアップする）

観光情報の入手先として「知人・友人の口コミ」を一番の情報原とする人々が多い現状（石狩市観光調査結果）に対応して、今後は「地域住民の持つ生の情報」をいち早く提供できる体制を構築します。

これまでの観光情報は「石狩さけまつり」や「石狩冬まつり」などイベント告知に終始してきましたが、実際求められる情報は、桜や紅葉などの見ごろはいつか、飲食店や商品などの最新情報はないかといったより細やかな、旬の情報です。

(4) 「持続可能な観光」で潤う

〈重点プロジェクト6〉

・手をつなぎプロジェクト（人を、まちをネットワークする）

市内においては、エリアのつながりを強化し、情報を交換・共有することで効果的な観光振興を図っている。

市外においては、特に札幌市と札幌広域圏組合とのつながりを強化し、点から面への広域観光の実現を目指している。

◎ 最近では、映画撮影よりコマーシャル、雑誌の取材が多い。

大型のロケでは、一般市民も参加している。

年間173万人の観光客があり、観光客が多い場所は、海水浴43万人、マリッジジャーである。

〈視察を終えて〉

各市を視察した結果、どの市も観光や特産品開発に取り組まれている。特に今回の視察では、富良野市の廃棄物処理とリサイクル事業は、資源化率99%（現在約93%）を目標として、市民と一体となって取り組んでおり、参考になる点が多くあった。我々建設経済委員会としても「燃やさない・埋めない」を目指し、推進して行きたい。